



## CHAPTER 20

# Flex Link および MAC アドレス テーブル移動更新機能の設定

この章では、Flex Link を設定する方法について説明します。Flex Link は、スイッチ上のインターフェイスのペアで、相互バックアップを提供します。また、MAC アドレス テーブル移動更新機能の設定方法についても説明します（Flex Link の双方向高速コンバージェンス機能でも参照できます）。



(注)

この章で使用するコマンドの構文および使用方法の詳細については、このリリースに対応するコマンドリファレンスを参照してください。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 「Flex Link および MAC アドレス テーブル移動更新機能の概要」 (P.20-1)
- 「Flex Link および MAC アドレス テーブル移動更新機能の設定」 (P.20-4)
- 「Flex Link および MAC アドレステーブル移行更新情報のモニタリング」 (P.20-11)

## Flex Link および MAC アドレス テーブル移動更新機能の概要

ここでは、次の情報について説明します。

- 「Flex Link」 (P.20-1)
- 「VLAN Flex Link ロード バランシングおよびサポート」 (P.20-2)
- 「MAC アドレス テーブル移動更新」 (P.20-3)

## Flex Link

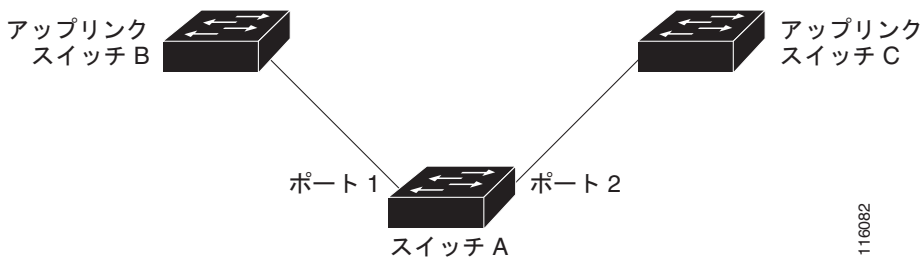
Flex Link は、レイヤ 2 インターフェイス（スイッチ ポートまたはポート チャネル）のペアで、一方のインターフェイスが他方のインターフェイスのバックアップとして動作するように設定されています。この機能は、Spanning Tree Protocol (STP; スパニング ツリー プロトコル) の代替ソリューションとして役立ちます。Flex Link があれば、STP をディセーブルにしても基本的なリンクの冗長性は失われません。Flex Link は一般的に、カスタマーがスイッチで STP を稼働しない場合に、サービス プロバイダーまたは企業ネットワークで設定されます。スイッチで STP が稼働している場合、すでに STP がリンクレベルの冗長性またはバックアップ機能を提供しているため、Flex Link を設定する必要はありません。

一方のレイヤ 2 インターフェイスを Flex Link またはバックアップ リンクとして割り当てることで、他方のレイヤ 2 インターフェイス（アクティブ リンク）に Flex Link を設定できます。一方のリンクがアップ状態でトラフィックを転送する場合、他方のリンクはスタンバイ モードになって、シャットダウンした場合にトラフィックを転送する準備をします。指定された時間に、インターフェイス 1 つだけがリンクアップ ステートになってトラフィックを転送します。プライマリ リンクがシャットダウンした場合、スタンバイ リンクがトラフィックの転送を開始します。アクティブ リンクがバックアップ状態になった場合、リンクはスタンバイ モードになって、トラフィックは転送されません。Flex Link インターフェイスでは、STP はディセーブルです。

図 20-1 では、スイッチ A のポート 1 およびポート 2 がアップリンク スイッチ B および C に接続されます。Flex Link として設定されているために、1 つのインターフェイスだけがトラフィックを転送していて、別のインターフェイスがスタンバイ モードになります。ポート 1 がアクティブ リンクの場合、ポート 1 とスイッチ B の間でトラフィックの転送を開始します。ポート 2（バックアップ リンク）とスイッチ C の間のリンクは、トラフィックを転送しません。ポート 1 がダウンすると、ポート 2 が起動してスイッチ C へのトラフィック転送を開始します。ポート 1 は復旧後スタンバイ モードになり、トラフィックを転送せず、ポート 2 が引き続きトラフィックを転送します。

また、トラフィックの転送に優先ポートを指定して、プリエンプト メカニズムを設定するように選択できます。たとえば、図 20-1 の例では、Flex Link ペアをプリエンプション モードで設定できます。ここに示すシナリオでは、ポート 1 が復旧しポート 2 よりも帯域幅が広い場合、60 秒後にポート 1 がトラフィックの転送を開始します。ポート 2 がスタンバイ ポートになります。これは、**switchport backup interface preemption mode bandwidth** および **switchport backup interface preemption delay** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力することで実行できます。

図 20-1 Flex Link の設定例

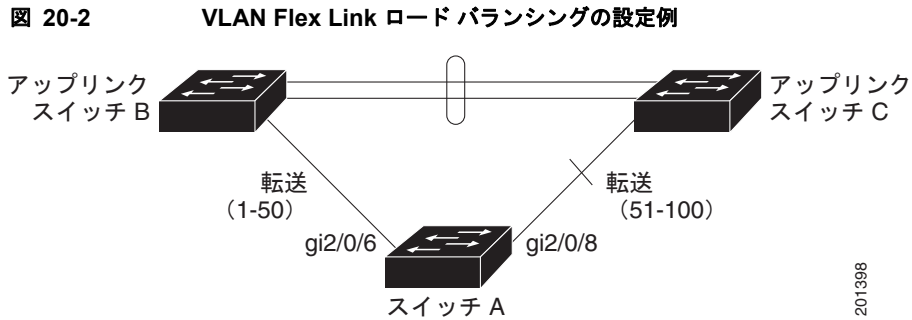


プライマリ（転送）リンクがダウンした場合、トラップはネットワーク管理ステーションに通知します。スタンバイ リンクがダウンした場合、トラップはユーザに通知します。

Flex Link はレイヤ 2 ポートおよびポート チャネルでだけサポートされ、VLAN でもレイヤ 3 ポートでもサポートされません。

## VLAN Flex Link ロード バランシングおよびサポート

VLAN Flex Link ロード バランシングにより、ユーザは相互に排他的な VLAN のトラフィックを両方のポートで同時に転送するように Flex Link ペアを設定できます。たとえば、Flex Link ポートが 1 ~ 100 の VLAN に対して設定されている場合、最初の 50 の VLAN のトラフィックを 1 つのポートで転送し、残りの VLAN のトラフィックをもう一方のポートで転送できます。いずれかのポートで障害が発生した場合には、もう一方のアクティブ ポートがすべてのトラフィックを転送します。障害が発生したポートが復旧すると、そのポートで優先される VLAN でトラフィックの転送が再開されます。このように、冗長性を提供するのとは別に、この Flex Link ペアはロード バランシングにも使用できます。また、Flex Link VLAN ロード バランシングによってアップリンク スイッチが制約を受けることはありません。



## MAC アドレス テーブル移動更新

MAC アドレス テーブル移動更新機能を使用すると、プライマリ（転送）リンクがダウンし、スタンバイリンクがトラフィックの転送を開始するときに、スイッチで双方向の高速コンバージェンスを提供できます。

図 20-3 のスイッチ A はアクセス スイッチで、ポート 1 およびポート 2 は、Flex Link のペアを介してアップリンク スイッチ B および D に接続されています。ポート 1 はトラフィックを転送し、ポート 2 はバックアップ ステート状態です。PC からサーバへのトラフィックは、ポート 1 からポート 3 に転送されます。PC の MAC アドレスは、スイッチ C のポート 3 で学習されます。サーバから PC へのトラフィックは、ポート 3 からポート 1 に転送されます。

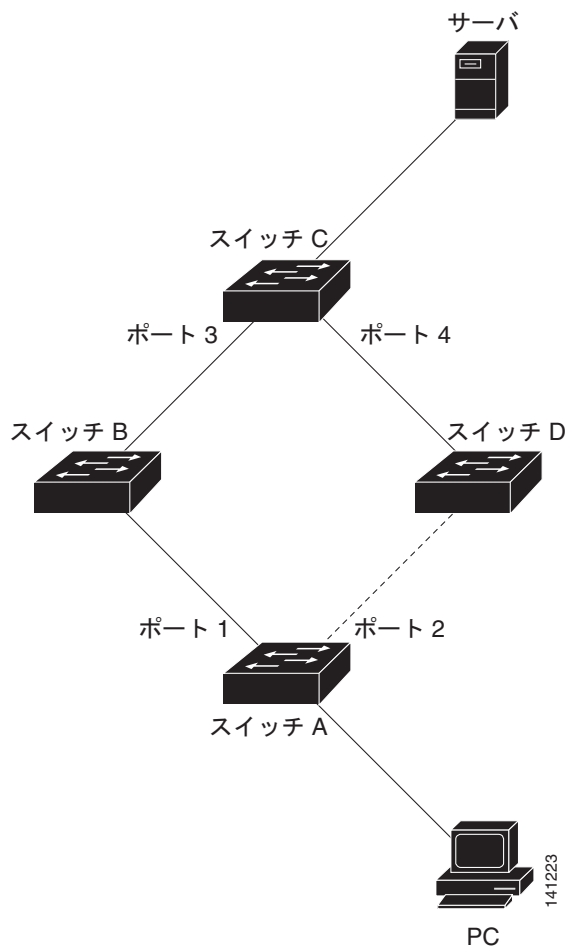
MAC アドレス テーブル移動更新機能が設定されていない状態でポート 1 がダウンすると、ポート 2 がトラフィック転送を開始します。短時間、スイッチ C はポート 3 を使用してサーバから PC へのトラフィックを転送しますが、PC はポート 1 がダウンしているため、そのトラフィックを受信しません。スイッチ C がポート 3 の PC の MAC アドレスを削除してポート 4 で再度学習すると、サーバから PC へのトラフィックを転送できます（ポート 2 を使用します）。

図 20-3 で、MAC アドレス テーブル移動更新機能を設定してスイッチ上でイネーブルにしている場合、ポート 1 がダウンしても、ポート 2 が PC からサーバへトラフィック転送を開始します。スイッチは MAC アドレス テーブル移動更新パケットをポート 2 から送信します。スイッチ C はこのパケットをポート 4 で受信すると、すぐに PC のポート 4 の MAC アドレスを学習するため、コンバージェンスを繰り返す時間を短縮できます。

アクセス スイッチ（スイッチ A）を設定して MAC アドレス テーブル移動更新メッセージを送信できます。また、アップリンク スイッチ B、C、D を設定して MAC アドレス テーブル移動更新メッセージを受信し、処理することもできます。スイッチ C は MAC アドレス テーブル移動更新メッセージをスイッチ A から受信すると、PC のポート 4 の MAC アドレスを学習します。次に、スイッチ C は PC のフォワーディング テーブルのエントリを含む MAC アドレス テーブルを更新します。

スイッチ A は、MAC アドレス テーブルの更新を待機する必要はありません。スイッチがポート 1 で障害を検出し、新規転送ポートであるポート 2 からのサーバトラフィックの転送を即座に開始します。この変更は 100 ミリ秒（ms）以内に発生します。PC はスイッチ A に直接接続され、接続ステータスは変更されません。スイッチ A は、MAC アドレス テーブル内の PC エントリを更新する必要はありません。

図 20-3 MAC アドレス テーブル移動更新の設定例



## Flex Link および MAC アドレス テーブル移動更新機能の設定

ここでは、次の情報について説明します。

- 「設定時の注意事項」 (P.20-5)
- 「デフォルト設定」 (P.20-5)
- 「Flex Link の設定」 (P.20-6)
- 「Flex Link 上での VLAN ロード バランシングの設定」 (P.20-7)
- 「MAC アドレス テーブル移動更新機能の設定」 (P.20-9)

## 設定時の注意事項

Flex Link を設定するときには、次の注意事項に従ってください。

- 最大で 16 のバックアップ リンクを設定できます。
- アクティブ リンクに対し、Flex Link のバックアップ リンクを 1 つのみ設定できます。このリンクはアクティブ インターフェイスとは異なるインターフェイスである必要があります。
- インターフェイスは Flex Link ペアの 1 つにのみ、所属できます。インターフェイスは、1 つのアクティブ リンクに対してのみバックアップ リンクになれます。アクティブ リンクは別の Flex Link ペアに属することはできません。
- いずれのリンクも EtherChannel に属するポートにはなれません。ただし、ポート チャネルまたは物理インターフェイスのいずれかがアクティブ リンクである場合、ポート チャネル 2 つ (EtherChannel 論理インターフェイス) を Flex Link として、またポート チャネルと物理インターフェイスを Flex Link として設定できます。
- バックアップ リンクはアクティブ リンクと同じタイプ (ファスト イーサネット、ギガビット イーサネット、またはポート チャネル) である必要はありません。ただし、スタンバイ リンクがトラフィックの転送を開始した場合に、ループや動作変更が起きないように、両方の Flex Link を類似の特性で設定する必要があります。
- Flex Link ポートでは、STP はディセーブルです。ポートの VLAN に STP が設定されていても、Flex Link ポートは STP に参加しません。STP がイネーブルでない場合、設定したトポロジでループが発生しないようにしてください。

Flex Link 機能による VLAN ロード バランシングを設定するには、次の注意事項に従ってください。

- Flex Link VLAN ロード バランシングでは、バックアップ インターフェイス上で優先 VLAN を選択する必要があります。
- 同一 Flex Link ペアに対してプリエンブト メカニズムと VLAN ロード バランシングを設定することができません。

MAC アドレス テーブル移動更新機能を設定するときには、次の注意事項に従ってください。

- MAC アドレス テーブル移動更新メッセージを送信する場合、この機能をアクセス スイッチに設定してイネーブルにします。
- MAC アドレス テーブル移動更新メッセージを受信する場合、この機能をアップリンク スイッチに設定してイネーブルにします。

## デフォルト設定

Flex Link は設定されていません。また、バックアップ インターフェイスも定義されていません。

プリエンブション モードはオフです。

プリエンブション遅延は 35 秒です。

MAC アドレス テーブル移動更新機能はスイッチに設定されていません。

## Flex Link の設定

Flex Link のペアを設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

|        | コマンド   | 目的   |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | <b>configure terminal</b>                              | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。   |
| ステップ 2 | <b>interface interface-id</b>                          | インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。インターフェイスは、物理レイヤ 2 インターフェイスにすることも、ポート チャネル（論理インターフェイス）にすることもできます。ポート チャネル範囲は 1 ~ 48 です。 |
| ステップ 3 | <b>switchport backup interface interface-id</b>        | 物理レイヤ 2 インターフェイス（またはポート チャネル）を、インターフェイスを装備した Flex Link ペアの一部として設定します。1 つのリンクがトラフィックを転送している場合、残りのインターフェイスはスタンバイ モードです。              |
| ステップ 4 | <b>end</b>   | 特権 EXEC モードに戻ります。  |
| ステップ 5 | <b>show interface [interface-id] switchport backup</b> | 設定を確認します。  |
| ステップ 6 | <b>copy running-config startup config</b>              | (任意) スイッチのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。   |

次に、バックアップ インターフェイスを装備し、設定を確認するようにインターフェイスを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(conf)# interface gigabitethernet0/1
Switch(conf-if)# switchport backup interface gigabitethernet0/2
Switch(conf-if)# end
```

```
Switch# show interface switchport backup
Switch Backup Interface Pairs:
Active Interface Backup Interface State
-----
GigabitEthernet0/1 GigabitEthernet0/2 Active Up/Backup Standby
```

Flex Link ペアのプリエンプト方式を設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

|        | コマンド  | 目的   |
|--------|---|--|
| ステップ 1 | <b>configure terminal</b>                       | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。   |
| ステップ 2 | <b>interface interface-id</b>                   | インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。インターフェイスは、物理レイヤ 2 インターフェイスにすることも、ポート チャネル（論理インターフェイス）にすることもできます。ポート チャネル範囲は 1 ~ 48 です。 |
| ステップ 3 | <b>switchport backup interface interface-id</b> | 物理レイヤ 2 インターフェイス（またはポート チャネル）を、インターフェイスを装備した Flex Link ペアの一部として設定します。1 つのリンクがトラフィックを転送している場合、残りのインターフェイスはスタンバイ モードです。              |

|       | コマンド  | 目的   |
|-------|---|--|
| ステップ4 | <code>switchport backup interface <i>interface-id</i> preemption mode [forced   bandwidth   off]</code> | Flex Link インターフェイス ペアのプリエンプトメカニズムおよび遅延を設定します。次のプリエンプションモードを設定することができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>forced : アクティブ インターフェイスが常にバックアップ インターフェイスより先に使用されます。</li> <li>bandwidth : より大きい帯域幅のインターフェイスが常にアクティブ インターフェイスとして動作します。</li> <li>off : アクティブ インターフェイスとバックアップ インターフェイスのどちらも優先されません。</li> </ul> |
| ステップ5 | <code>switchport backup interface <i>interface-id</i> preemption delay <i>delay-time</i></code>         | ポートが他のポートより先に使用されるまでの遅延時間を設定します。<br>(注) 遅延時間の設定は、forced および bandwidth モードでだけ機能します。   |
| ステップ6 | <code>end</code>  | 特権 EXEC モードに戻ります。  |
| ステップ7 | <code>show interface [<i>interface-id</i>] switchport backup</code>                                     | 設定を確認します。  |
| ステップ8 | <code>copy running-config startup config</code>   | (任意) スイッチのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。   |

次に、バックアップ インターフェイスのペアに対してプリエンプション モードを *forced* に設定し、設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(conf)# interface gigabitethernet0/1
Switch(conf-if)#switchport backup interface gigabitethernet0/2 preemption mode forced
Switch(conf-if)#switchport backup interface gigabitethernet0/2 preemption delay 50
Switch(conf-if)# end
```

```
Switch# show interface switchport backup detail
Active Interface Backup Interface State
-----
GigabitEthernet0/1 GigabitEthernet0/2 Active Up/Backup Standby
Interface Pair : Gi0/1, Gi0/2
Preemption Mode : forced
Preemption Delay : 50 seconds
Bandwidth : 100000 Kbit (Gi0/1), 100000 Kbit (Gi0/2)
Mac Address Move Update Vlan : auto
```

## Flex Link 上での VLAN ロード バランシングの設定

Flex Link の VLAN ロード バランシングを設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

|       | コマンド                                       | 目的   |
|-------|--|--|
| ステップ1 | <code>configure terminal</code>            | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。   |
| ステップ2 | <code>interface <i>interface-id</i></code> | インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。インターフェイスは、物理レイヤ 2 インターフェイスにすることも、ポート チャネル (論理インターフェイス) にすることもできます。ポート チャネル範囲は 1 ~ 48 です。 |

|        | コマンド  | 目的  |
|--------|---|---|
| ステップ 3 | <b>switchport backup interface <i>interface-id</i> prefer vlan <i>vlan-id</i></b> | 物理レイヤ 2 インターフェイス (またはポート チャネル) を、インターフェイスを装備した Flex Link ペアの一部として設定し、インターフェイス上に割り当てられた VLAN を指定します。指定できる VLAN ID 範囲は 1 ~ 4094 です。 |
| ステップ 4 | <b>end</b>  | 特権 EXEC モードに戻ります。   |
| ステップ 5 | <b>show interfaces [<i>interface-id</i>] switchport backup</b>                    | 設定を確認します。   |
| ステップ 6 | <b>copy running-config startup config</b>   | (任意) スイッチのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。  |

この例では、VLAN 1 ~ 50、60、および 100 ~ 120 がスイッチに設定されています。

```
Switch(config)# interface gigabitEthernet 0/6
Switch(config-if)# switchport backup interface gigabitEthernet 0/8 prefer vlan 60,100-120
```

両方のインターフェイスが動作中の場合は、Gi0/8 が VLAN 60 および VLAN 100 ~ 120 のトラフィックを転送し、Gi0/6 が VLAN 1 ~ 50 のトラフィックを転送します。

```
Switch# show interfaces switchport backup
Switch Backup Interface Pairs:
```

```
Active Interface      Backup Interface      State
-----
GigabitEthernet0/6   GigabitEthernet0/8   Active Up/Backup Standby
```

```
Vlans Preferred on Active Interface: 1-50
Vlans Preferred on Backup Interface: 60, 100-120
```

Flex Link インターフェイスがダウンすると (LINK\_DOWN)、このインターフェイスで優先される VLAN は Flex Link ペアのピア インターフェイスに移動します。この例では、インターフェイス Gi0/6 がダウンすると、Gi0/8 が Flex Link ペアのすべての VLAN を伝送します。

```
Switch# show interfaces switchport backup
Switch Backup Interface Pairs:
```

```
Active Interface      Backup Interface      State
-----
GigabitEthernet0/6   GigabitEthernet0/8   Active Down/Backup Up
```

```
Vlans Preferred on Active Interface: 1-50
Vlans Preferred on Backup Interface: 60, 100-120
```

Flex Link インターフェイスがアップになると、このインターフェイスで優先される VLAN はピア インターフェイスでブロックされ、アップしたインターフェイスでフォワーディング ステートになります。この例では、インターフェイス Gi0/6 が再び稼働し始めると、このインターフェイスで優先される VLAN がピア インターフェイス Gi0/8 でブロックされ、Gi0/6 に転送されます。

```
Switch# show interfaces switchport backup
Switch Backup Interface Pairs:
```

```
Active Interface      Backup Interface      State
-----
GigabitEthernet0/6   GigabitEthernet0/8   Active Up/Backup Standby
```

```
Vlans Preferred on Active Interface: 1-50
Vlans Preferred on Backup Interface: 60, 100-120
```



```
Switch# show interfaces switchport backup detail
Switch Backup Interface Pairs:

Active Interface      Backup Interface      State
-----
FastEthernet0/3      FastEthernet0/4      Active Down/Backup Up

Vlans Preferred on Active Interface: 1-2,5-4094
Vlans Preferred on Backup Interface: 3-4
Preemption Mode      : off
Bandwidth : 10000 Kbit (Fa0/3), 100000 Kbit (Fa0/4)
Mac Address Move Update Vlan : auto
```

## MAC アドレス テーブル移動更新機能の設定

ここでは、次の情報について説明します。

- スイッチを設定して、MAC アドレス テーブル移動更新メッセージを送信する。
- スイッチを設定して、MAC アドレス テーブル移動更新メッセージを受信する。

MAC アドレス テーブル移動更新メッセージを送信するようにアクセス スイッチを設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

|       | コマンド   | 目的   |
|-------|--|--|
| ステップ1 | <b>configure terminal</b>  | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。   |
| ステップ2 | <b>interface interface-id</b>  | インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。インターフェイスは、物理レイヤ 2 インターフェイスにすることも、ポートチャンネル（論理インターフェイス）にすることもできます。ポートチャンネル範囲は 1 ～ 48 です。   |
| ステップ3 | <b>switchport backup interface interface-id</b><br><br>または<br><b>switchport backup interface interface-id mmu primary vlan vlan-id</b> | 物理レイヤ 2 インターフェイス（またはポートチャンネル）を、インターフェイスを装備した Flex Link ペアの一部として設定します。MAC アドレス テーブル移動更新の VLAN がインターフェイスで一番小さい VLAN ID です。<br><br>物理レイヤ 2 インターフェイス（またはポートチャンネル）を設定し、MAC アドレステーブル移動更新の送信に使用される、インターフェイス上の VLAN ID を指定します。<br><br>1 つのリンクがトラフィックを転送している場合、残りのインターフェイスはスタンバイ モードです。 |
| ステップ4 | <b>end</b>   | グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。  |
| ステップ5 | <b>mac address-table move update transmit</b>  | アクセス スイッチをイネーブルにして、ネットワーク内の他のスイッチに MAC アドレス テーブル移動更新メッセージを送信します（プライマリ リンクがダウンし、スイッチがスタンバイ リンクを使用してトラフィックの転送を開始する場合）。   |
| ステップ6 | <b>end</b>   | 特権 EXEC モードに戻ります。  |

|        | コマンド  | 目的   |
|--------|---|--|
| ステップ 7 | <code>show mac address-table move update</code> | 設定を確認します。                                    |
| ステップ 8 | <code>copy running-config startup config</code> | (任意) スイッチのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。 |

アクセス スイッチで MAC アドレステーブル移行更新機能をディセーブルにするには、**no mac address-table move update transmit** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。MAC アドレス テーブル移動更新情報を表示するには、**show mac address-table move update** 特権 EXEC コマンドを使用します。

次の例では、アクセス スイッチが MAC アドレス テーブル移行更新メッセージを送信するように設定する方法を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(conf)# interface gigabitethernet0/1
Switch(conf-if)# switchport backup interface gigabitethernet0/2 mmu primary vlan 2
Switch(conf-if)# exit
Switch(conf)# mac address-table move update transmit
Switch(conf)# end
```

次の例では、設定の検証方法を示します。

```
Switch# show mac-address-table move update
Switch-ID : 010b.4630.1780
Dst mac-address : 0180.c200.0010
Vlans/Macs supported : 1023/8320
Default/Current settings: Rcv Off/On, Xmt Off/On
Max packets per min : Rcv 40, Xmt 60
Rcv packet count : 5
Rcv conforming packet count : 5
Rcv invalid packet count : 0
Rcv packet count this min : 0
Rcv threshold exceed count : 0
Rcv last sequence# this min : 0
Rcv last interface : Po2
Rcv last src-mac-address : 000b.462d.c502
Rcv last switch-ID : 0403.fd6a.8700
Xmt packet count : 0
Xmt packet count this min : 0
Xmt threshold exceed count : 0
Xmt pak buf unavail cnt : 0
Xmt last interface : None
```

MAC アドレス テーブル移動更新メッセージを受信するようにスイッチを設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

|        | コマンド   | 目的   |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | <code>configure terminal</code>                    | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                         |
| ステップ 2 | <code>mac address-table move update receive</code> | スイッチをイネーブルにして MAC アドレス テーブル移動更新メッセージを受信し、その処理を実行します。 |
| ステップ 3 | <code>end</code>                                   | 特権 EXEC モードに戻ります。                                    |
| ステップ 4 | <code>show mac address-table move update</code>    | 設定を確認します。  |
| ステップ 5 | <code>copy running-config startup config</code>    | (任意) スイッチのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。         |

アクセス スイッチで MAC アドレステーブル移行更新機能をディセーブルにするには、**no mac address-table move update receive** コンフィギュレーション コマンドを使用します。MAC アドレス テーブル移動更新情報を表示するには、**show mac address-table move update** 特権 EXEC コマンドを使用します。

次に、MAC アドレス テーブル移動更新メッセージを受信して、その処理を実行できるようにスイッチを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(conf)# mac address-table move update receive
Switch(conf)# end
```

## Flex Link および MAC アドレステーブル移行更新情報のモニタリング

表 20-1 に、Flex Link 設定および MAC アドレス テーブル移動更新情報を監視する特権 EXEC コマンドを示します。

表 20-1 Flex Link および MAC アドレス テーブル移動更新情報のモニタリング コマンド

| コマンド  | 目的   |
|---|--|
| <b>show interface</b> [ <i>interface-id</i> ]<br><b>switchport backup</b> | 1 つのインターフェイスに設定された Flex Link バックアップ インターフェイス、または設定した Flex Link すべてと、アクティブおよびバックアップ インターフェイスそれぞれのステート（アップまたはスタンバイ モード）を表示します。 |
| <b>show mac address-table move update</b>                                 | スイッチに MAC アドレス テーブル移行更新情報を表示します。   |

